

所属	心理学研究科 臨床心理学専攻 修士課程	修了年度	2025 年度
氏名	森 駿	指導教員 (主査)	阪無勇士 専任講師

論文題目	地域サロンで受ける欲求支援行動が参加継続意欲に与える影響
------	------------------------------

本文概要
【問題と目的】我が国では高齢期の心身の健康をいかにして維持していくかが重要な検討課題となっており（厚生労働省, 2016）, 「地域サロン」の設置が全国的に推進されている（公益財団法人さわやか福祉財団, 2016）。しかし, 地域サロンにおいては, 参加を継続する意欲を維持することが容易ではない参加者や, 主体的な参加が必ずしも高くない参加者が一定数存在することが報告されている。（野中他, 2022）。高齢者が地域サロンの活動を継続し, さらにそこでの活動を通じて健康を維持するためには自律的動機づけを持つことが重要である（堀口・大川, 2018）。そこで本研究では, 地域サロンにおいてどのような要因が自律的動機づけを高めているかについて自己決定理論（Deci & Ryan, 1990）の枠組みを用いて検討することとした。自己決定理論では, 基本的心理欲求を満たすことで動機づけの自律性が高まるとされており, さらに基本的心理欲求を満たすような周囲からの行動は欲求支援行動と呼ばれる（Van den Berghe et al., 2013）。高藤（2010）は地域サロンに参加していく内に参加者の自律的な動機づけが高まったことを示唆する参加者の事例を報告しており, 地域サロンにおいて他者からの関わりを受けることが, 参加に対する動機づけを高める可能性が考えられる。また, 参加者の他者に対する意識・態度は活動への参加に影響することが報告されており（公益財団法人さわやか福祉財団, 2016；岡本, 2008）, 他者交流を目的とする地域サロンにおいては参加者の他者に対する意識・態度も参加への自律的動機づけや参加への継続的意欲に関係すると考えられる。また, 他者と関わることで, 積極的に他者と交流しようとする意識・態度が高まった事例が報告されている（川崎, 2018）。以上より, 地域サロンにおける他者からの関わりは, 参加への自律的動機づけや継続意欲に影響を与えるが, その背景には他者に対する意識・態度への影響があることが考えられる。そこで, 本研究では, この点について検討し, 地域サロンの参加者が自律的で継続的に参加できるような支援の示唆を得ることを目的とした。 【方法】関東圏の9か所の地域サロンに参加する60歳以上の男女246名を対象に無記名式の質問紙調査を行った。調査内容は（1）対象者の年齢, 性別, 同居者の有無, 活動内容, 参加頻度や参加期間（2）IBQ-J（肖・外山, 2020）のうち支援行動の項目を用いた（3）対人関係性尺度（高井, 1999）（4）社会的活動参加動機づけ尺度（堀口・小玉, 2014）（5）地域サロンへの参加継続意欲を尋ねた。 【結果と考察】パス解析の結果, 自律性支援行動と関係性支援行動が他者受容を介して自律的動機づけや参加継続意欲に正の影響を与えることが示唆された。地域サロンの運営に関わる専門職や参加者自身が他の参加者に対して関係性や自律性の欲求を支援するように関わることを意識することで, その関わりを受けた参加者も他の参加者に対して受容的な態度を強め, 参加者の自律的動機づけが高まり, 継続的な参加や健康の維持につながっていることが示唆された。一方で, 自己優先的な意識・態度やありのままの自己を表出するような意識・態度は自律的動機づけに対する影響が見られなかった。また, 有能感欲求を支援する周囲からの行動も, 地域サロンへの自律的な動機づけや参加継続意欲に影響を与えなかった。本調査は, 関東圏の9箇所を対象にした調査であったため, 今後は調査対象を広げ, どのような地域サロンの環境が欲求支援行動を促進し, 自律的動機づけと参加継続意欲に最も効果的に作用するかについて検討することで, より普遍的なモデルについて検討することが求められる。